えりも岬
の
お話

～自然、人間と市場の関係～

えりも町は北海道の南にある町です。
古くはアイヌ人が豊かな自然と共に
生きていました。

1871年、本州から人々も移り住み
はじめました。

海では昆布や魚が多くとれ、古くはアイヌ人が昆布をとっていました。

本州から移り住み始めた人々は、とれたこんぶや、さけなどを市場に売り始めました。

さけ

かつお

人々の魚をとる技術は進みかつお、ます、まぐろなどもとれるようになりました。また、とれたかつおで、かつお節もつくりはじめました。市場へ新商品を売り始めると収入は増えました。

このようにえりも町の人々は、豊かな自然の恵みを受けて生活していました。

こんぶ

ます

まぐろ

寒いので人々は暖をとるため、木々を切って使っていました。

その中、木がなくなってしまうことを恐れ、木を植えることもありました。

しかし、戦争が起こり、木は軍で必要となったため、木々をどんどん切っていきました。戦争が激しくなり木を植えることは中止となりましたが、木々は切られ続けました。

1945年戦争が終わっても、戦争で荒れた国内に木々は必要であったため、戦時中より多くの木々が切られていきました。

大変だよー

家の中まで砂が．．

次第に、森林だった土地は砂漠になっていきました。えりも岬はとても風が強いため、砂やちりが家の中に入ってしまうほどでした。

寝る時、食べる時も、砂に悩ませられ病人が出るほど住みにくい場所になりました。

近寄るのやめよう

さらに、強い風は砂を海にまで広がらせ、海の水は濁ってしまいました。

回遊魚も寄り付かず、戦争中に荒れた沿岸域の影響もあり、とれる魚の量は減ってしまいました。漁民は収入が減り貧しくなっていきました。

事業所も作って
緑化事業スタート

風で飛んでなかなか
上手くいかない

1953年砂漠になった約192haの土地に、草や木を植える計画が始まりました。

草を植えるのも大変な作業でした。

強い風で種子が飛ばされるため、手作りのヨシズで覆ったりしましたが効果は上がらず、雑海藻を草の種を蒔いた土の上に覆う工法が大きな成果をもたらしました。

17年経ち、1970年192haの草による緑化が終了しました。

海草を拾い集め
土に被せるよ

砂漠を草地にするだけでも
17年もかかった

木を植えるのにも困難がありました。風が強く寒い環境では、木は上手く育たず、植林作業は一時中止になりました。1971年に、生育が最も良かったクロマツの植樹を再開しました。

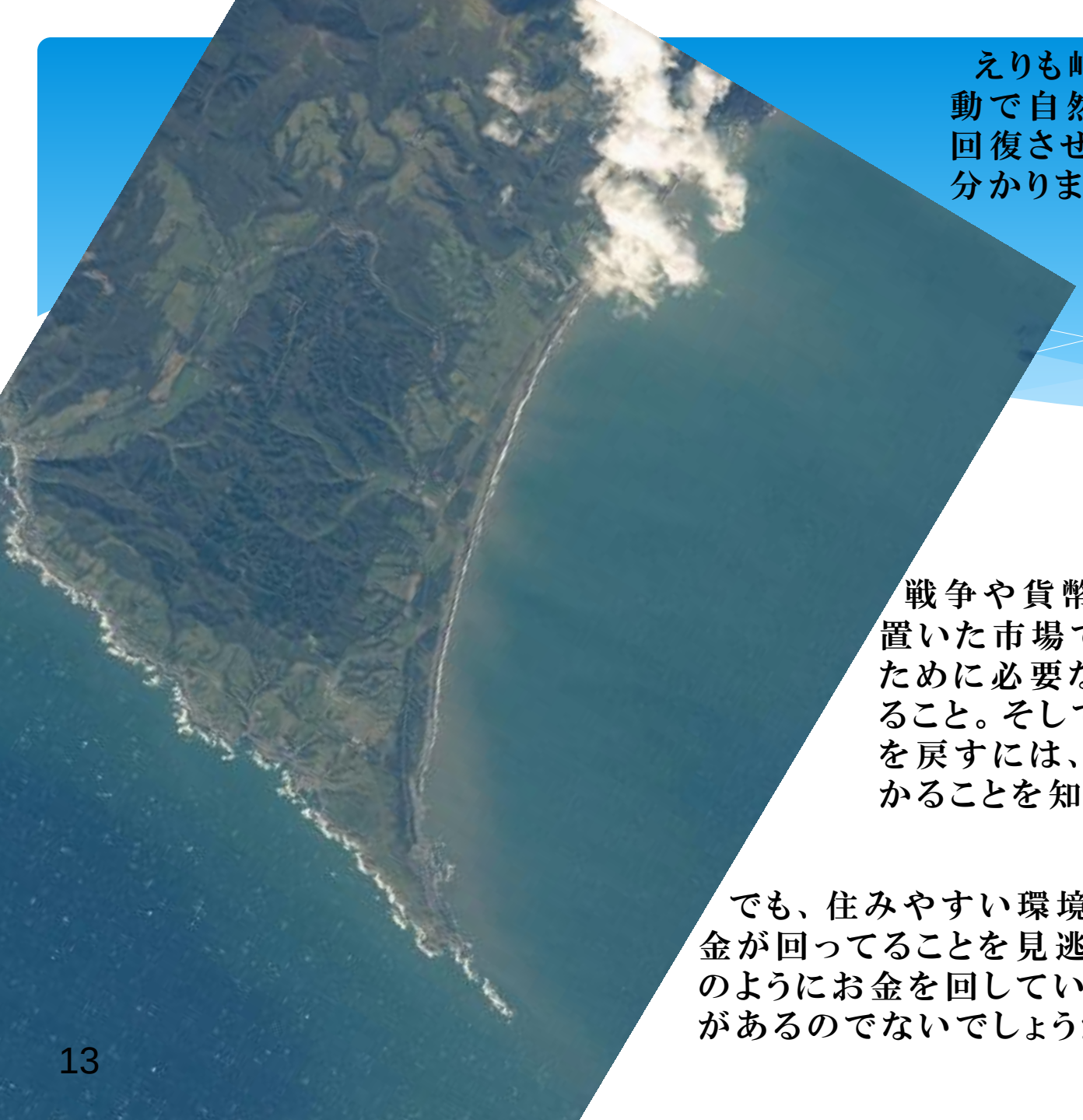
寒いから
冬は凍るの

せっかく植えたのにー

強い風から木を守るため、様々な柵が試されていきました。防風柵の設置方法や種類によって、木を植える作業は進みました。しかし、冬の間に地面が凍り膨らんで苗木が全部持ち上がる問題も生じたため、土中の水を抜くために排水溝を掘る作業もしました。

56年でやっと
ここまで

2009年96％の緑化に成功しましたが、
56年の年月と、事業費17.9億円かかりました。



えりも岬のお話から、人の行動で自然の恵みを、失うことも、回復させることもできることが分かります。

戦争や貨幣の利益獲得に重点を置いた市場では、人が快適に生きるために必要な自然を軽視しがちになること。そして、一度失われた自然を戻すには、多くの労力と時間がかかることを知ることができます。

でも、住みやすい環境を取り戻すためにお金が回ってることを見逃してはいけません。どのようにお金を回していくか、考えていく必要があるのでないでしょうか。

私たちの行動次第で、この先住みにくい地球にも
住みやすい地球にもなります。

参考文献

*渡辺　茂(1971)『えりも町史』,えりも町

*えりも町役場(2001)『増補えりも町史』,えりも町役場

*株式会社神戸製鋼所 アルミ・銅カンパニー企画管理部(2008.04.14)『シリーズ・地球環境を考える「襟裳岬に春が来た、森林再生。」』

*北海道森林管理局監修飯田常雄語り（2003):『えりも緑化事業の半世紀 : あるコンブ漁師の話』えりも岬緑化事業50周年記念事業実行委員会

*林野庁浦河営林署(1986):緑は海を生き返らせた--えりも岬緑化事業の経過と効果--北海道営林局の森林施業100選より.北方林業 38(2), p45-48, 1986-02

*北海道森林管理局HP

写真

*地球の出（JAXA）

http://www.imart.co.jp/tikyuu-tuki-taiyou.html

*Wikipediaえりも岬

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%9F%E8%A3%B3%E5%B2%AC

あとがき

えりも町の歴史を調べるにあたり、東京工業大学吉村千洋先生・藤井学先生、立命館大学・東京大学仲上健一先生、神戸学院大学矢嶋巌先生、室蘭工業大学若菜博先生、神戸大学草苅仁先生のご協力やご紹介などにより調べることができました。また様々な方々のアドバイスのおかげでまとめるところまで至り本当に感謝しております。さらに、ママミキーキッズスノースクールには、パンフレット設置を快諾いただき、絵本にしてみようと考えが浮かびました。皆様ありがとうございます。

人とのつながりに日々感謝しながら
この先も住みよい地球環境で
あってほしいと願います。

平成29年3月21日　大谷　絵利佳